

料金後納
郵便

ゆうメール

やまもり通信

NO. 255 2025.5 NPO法人恵那山みどりの会



4/27 第22回「竹林整備とタケノコ掘り」開催 於:千旦林竹林

今回の役員によるリレー投稿は河合事務局長です。

5/18(日) 2025年度通常総会があります。是非ご参加ください。

リニューアルホームページ

恵那山みどりの会

検索

<https://takaminecloud.mizunoinfo.com/4DCGI/MID2/>

失敗を恐れず挑戦を

河内龍二

当会の活動内容は発足時と今では大きく変わってきた。「中津川の森を守る」から「地域の環境を守る」、つまり、地域の支障木、地域の荒廃した竹林の整備、高齢者の家の庭の手入れなどに変化してきた。しかし、森を守りたいという想いは「木の伐採体験会」や「もりづくり・間伐体験会」など市民への啓蒙活動などに引き継がれている。

会員、役員の高齢化、会員の減少がこの背景にある。この傾向は以前から見込まれていたが、我々では如何ともし難い社会背景があり、毎日もがいているのが現状である。また林業でも斯界の衰退は従事者の高齢化さらに国産材利用の伸びの停滞が主な原因だといわれるが、従事者の数も問題である。最近では政府の「緑の雇用」政策により

少しずつ増えてきているが充分とは言えない。根本的解決には国産材の需要を増やす事であるが、大きな需要源となる住宅への木材利用率を増やすこと。その為には間伐材の有効活用と低コスト化技術のさらなる開発と、税制優遇の拡大、国民への啓蒙が急務である。政府のこのような広報が十分とはいえない。

しかし、他方では人口減、結婚率の低下、都市部への人口集中など戸建て住宅への需要への懸念もある。政府の総合的な政策立案を期待したい。

一方、我々恵那山みどりの会としては前述の問題を踏まえつつ、今後どのように活動を進めていくべきか、考える良い時期である。

昨年末より役員会の中で「なすの森」の活用案を検討してきた。いくつかの案が出て、これを実行していくことが確認された。この背景は昨年の総会の活動方針を踏まえて、なすの森での当会の活動を

通して市民に森の大切さを伝えるためである。

現状では今までのように、積極的に森の間伐活動をするのではなく、体力に合わせたイベント活動にシフトしている。我々はそのイベントの内容をレベルアップし、意義のある、やりがいのある活動にしなければならぬ。

今話題のAI（人工知能）に今何をすべきか相談する必要もなく、我々には過去の経験と実績があり、2人みなで知恵を出し、話し合い、AIに負けないよりよい活動になるよう、試行錯誤をすればきっと新しい芽を生むことができると思っている。

本田宗一郎氏の言葉に『理念なき行動は危険である。行動なき理念は無意味である』とある。今の我々には「試行錯誤」という行動力が必要だと思う。鳥の目を持ち、アリの目で失敗を恐れず、いろんなことに挑戦しよう！

森づくりだより

手賀野 ヒノキほか伐採搬出作業

二月二十八日（金） 六名

住宅敷地裏の河川に面した所有地内にある、ヒノキとモミジの伐採搬出作業が今年最初の作業となった。

作業箇所は河川に面しているため車



は入らず、軽トラへの積み込みは人海戦術で五十mほどの小道を何往復もして運搬するしかなく、手間のかかる搬出作業であった。

まずモミジの伐倒搬出からかかった

が、川までの距離がなくヒノキを寝かす場所が無いため、並行してヒノキの枝の切落とし作業を行った。小川であるが段差も有り、川の中に落とすと面倒なため吊切りとしたが長い枝は川の中に入ったらしい。

幹も吊切りとしたが斜面を転がり川へ入ってしまった、うまくいかないものである。

三m程にした幹を寝かしたが、やはり元口が川の中に入り込んでしまった。最後に川から引き揚げ、人が運べる長さに玉切りをして搬出、今年最初の作業を無事終了した。

川上 敷地内広葉樹伐倒作業

三月十日（月） 四名

会員の知り合いで川上にお住まいの方からの依頼作業である。敷地内にある大径木の広葉樹で高さは十五m程もあるうか思われ、幹の一本が枯損して玄関の庇に落ちたとのこと。余りにも高くなり今後のことが心配で伐採を

依頼されたものである。

根元は一本であるが一m程の所で三本に分かれ、途中でも枝が分かれ、主幹がわからないほど見事な姿である。



寝かす場所は家との反対方向にかなり広くあるが、距離的に樹高と同じくらいの高さに道路があるため、頂部を切り落として伐倒とした。

伐倒位置は株別れた所での要望であり、寝かす側から順に伐倒、枝切を行い、伐倒時、道路への影響がありそうな高く伸びている二本の幹の頂部を切り落とし、この二本にチルホール牽引用のロープを取付け午前中の作業を終了

した。



株別れ箇所での伐倒ということ、足場を枝打ち梯子、スーパーステップで確保し、株別れ箇所より少し高い位置で伐倒し、伐倒木の枝払い、玉切り集積を行っている間に、高い部分五十cm程を切り落とした。



残りの一本も同じ要領で伐倒、切り落しを行い、無事作業を終了した。

駒場 敷地内広葉樹伐倒搬出作業

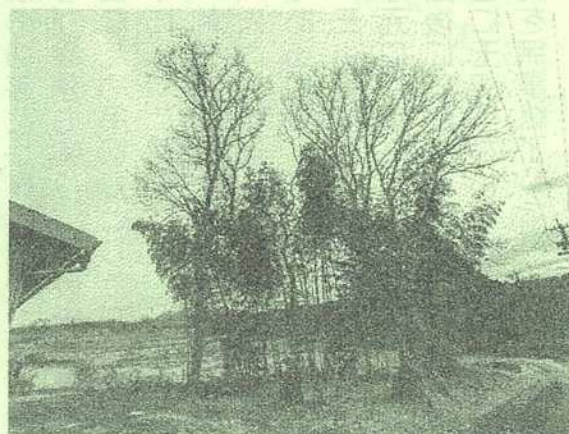
三月十八日(火) 三名

二十日(木) 四名

二十一日(金) 四名

昨年大径木のナラ二本を伐倒搬出した箇所の、残り二本の伐倒搬出依頼である。

昨年のナラと遜色ない大径木であり、高さも枝ぶりも立派なナラである。



一日目、寝かす場所が限られているため、午前一本目の幹頂部や横に出

ている枝の切り落とし作業を行った。

午後、無事に許容範囲内へ寝かし、枝払い、玉切り作業を行って一日目の作業を終了した。

二日目、道路際の一回り太いナラであるが、これも一日目と同様上部の切落とし作業を午前に行い、午後一本目の隣へ無事寝かした。

引き続き枝払い玉切り作業を行ったが、株別れしている箇所は優に1mを超えており、玉切りも一苦労であった。クレーン付きトラックでの積込みを考慮して2m以下の長さに玉切りを行い二日目の作業を終了した。

三日目、クレーン付きトラックによる搬出作業で、幹や太い枝をクレーンで吊り上げ、荷台に積み込み福岡の作業場へ二台で三往復した。

その間、細かい枝を軽トラック七台分瀬戸へ搬入した。最後に残った枝をダンプの荷台へ目一杯積み込み、瀬戸へ搬入して三日間の作業を終了した。

【定例作業日誌】

森林資源活用部 伊藤 守

二月二十五日(火) 晴れ

薪作り 五人

三月十一日(火) 雨

薪作り 四人

炭窯の焚き口作り

三月二十五日(火) 晴れ

薪作り 四人

四月八日(火) 晴れ

薪作り 八人

薪作り



3月25日の作業風景(玉切り)

スプリング・エフェメラル

春先に花をつけ、夏までに葉を付けるとあとは地下で過ごす草花の事はかなく「春の妖精」とも呼ばれます。カタクリ・フクジュソウ・ショウジョウバカマ・セツブンソウ等が知られています。

「春の女神」と呼ばれているギフチョウは、サクラの咲く春に現れ、夏前に蛹となり来春まで眠りに就きます。まさしくスプリング・エフェメラルの昆虫です。

今年もサクラの開花を待って、自



ミツバツツジの蜜を吸う
ギフチョウ

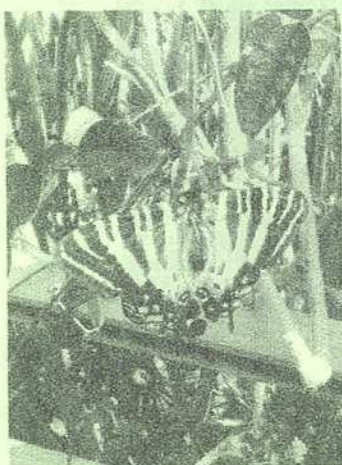
宅近くの観察地に風の無い暖かな日を選んで通いました。

今年は幸運なことにミツバツツジからの吸密行動、交尾行動を観察できました。

ギフチョウのよく訪れる花は、カタクリ、ショウジョウバカマ、ツツジなど赤紫や紫色の花が好みようです。

ギフチョウの交尾は、目の前を飛んでいた二匹がぶつかったと思うと地上に落ちそこで交尾をしていました。交尾後は、雌に雄の粘液から作った交尾板(貞操帯)付け、二度と交尾できないようにします。

へ向かい合って交尾しているギフチョウ



竹林整備とタケノコ掘り大会

一般参加者13名 スタッフ8名

於：千旦林A氏竹林

最高の天候に恵まれたこのイベントも今回で22回となりました。3家族6名、名古屋他から7名の参加でした。

20日開催の予定でしたが、下見の時点では気温も低く、タケノコの生育も見られず、27日に延期となりましたが、結果的にはその後の気温の上昇と、スタッフの願いが叶い、今までになく、素晴らしい天気と、沢山のタケノコに恵まれました。

予報では夏日になりそうだったので予定を早め、竹林整備の時間を短縮しましたが、子どもたちはそれでも手ノコで一生懸命に伐っていました。お母さんがそれを支え、協力して作業しました。「初めてのノコ体験で難しかったけど、楽しかった！」とのこと。

チップパー機の体験もしました。バリバリという音に、思わず耳をふさぐことも。



親子で竹を伐りました



チップパー機の音にびっくり！



いよいよタケノコ掘りです。一般参加者のご婦人たちも袋一杯収穫しました。

子どもたちも「自分で掘る」と言って、鍬を振り下ろし、楽しそうでした。



七十八歳の手習いに挑戦中

【キョウイクとキョウヨウを体験中】

河合博臣

恵那山みどりの会にお世話になって14年がすぎましたが、伐採など雑木林で作業のある日は朝9時から15時頃まで汗をかくの楽しくもありがたい時間を過ごします。また、森の学校「はっぱっぱ」のイベントがある日は事前の準備などで2、3日の作業があり、充実した時間を過ごすことができますが、みどりの会の用事が無い日は「テレビのお守」の時間を過ごすこととなります。

そこで、本など読まない自分がある本に出会いました。定年退職した人（老人と表現）が若い人たちのようにつきあっているのか、付き合ったらいいのか、若者の気持ちを理解すればいいのか、老人の居場所はどこか等をコミカルに表現していました。

老人には、教養と教育が必要だとあり、はて何のことかと思ひ続きを読み、なるほどとひざをポンと叩ける理解ができました。

教育とは「キョウイク行く所があること」、教養とは「キョウヨウ用事があること」で自分が社会の一員で生きており、決して無用の老人とならないよう、キョウイクとキョウヨウに挑戦することとした。

そこで、教養と教育を探すことにしたところ、坂本公民館の市民講座で「初めての己書（オノレシヨ）」を見つけました。字の下手な自分でしたが、人前で文字を書きたいとの思いがあったので挑戦することとしました。この己書とは、「心のままに描く書・自分だけの書の意味で、まさに自分だけのオンリーワンの書」だそうです。字がうまくなくても書けそうに挑戦してみることになりました。早速申込をして手習いが始まりましたが文字の基本ができてなければ自分だけの書にならないことが分かり文字の練習をはじめました。そこで、漢字



の練習でシヤボニカ学習帳（こくこ）15マスを購入し、教本の選択は漢字が多く書いてある般若心経を参考としました。練習成果を下記の「一歩ずつ進もう」ですが、自分の覚悟を表して書いてみました。この講座の生徒は7名で女性6名男性1名の7名の教室ですが、女性たちは集中力がすごく90分間にはがき2枚を仕上げますが、自分は1枚の仕上げが精一杯でし



2025年 5 月・活動/打合せ予定						
日	曜日	時間	活動内容	会場	対象	備考
4 日	日	13 : 30	役員会	事務所	担当・役員	
11 日	日	9 : 00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
13 日	火	9 : 00	定例作業日	福岡薪小屋	会員・一般	
18 日	日	14 : 00 15 : 30	2025年度通常総会 受付:13.30分	ひと・まちテラス	会員	会場:101C
19 日	月	9 : 00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
25 日	日	9 : 0	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
27 日	火	9 : 00	定例作業日	福岡薪小屋	会員・一般	
28 日	水	13 : 30	企画会議	事務所	担当・役員	
5 月 イ ベ ン ト と 森 の 学 校 の 予 告						
	行事内容			会場	備考	
編集部連絡:原稿締切は毎月20日です。 また、手書き原稿は「河内」までFAX等で提出してください。 森林、資源、地域の問題などで当会の活動に関連ある ご意見などをお寄せください。 関係の深い記事など通信に記載します。 イラストなどもお寄せください。				発行責任者:NPO法人恵那山みどりの会 理事長 河内 龍二 事務所 〒508-0042中津川市西宮町2-13 (TEL・FAX 0573-65-1366) 13:00~16:00(水・土・日・祭日休み) メールアドレス:midorinokai@wine.ocn.ne.jp		

～^{ねが}希望をともに～

恵那山みどりの会は
緑豊かな里山づくりをめざし
木の炭化をすの その利用にて
炭焼や しいたけの原木をつくります
種拾いや 植樹をします

未来を担う子どもたちのために
森の学校は「はっぴーほ」を開きます
自然をとりもどしたいという人々の願いは
強まっています

経済優先の社会と別れ
自然とともに生きる 豊かな社会
をめざしているのです

恵那山みどりの会は
そういう人と共に
生きていこうと 考えています

2025年 6 月・活動/打合せ予定

日	曜日	時間	活動内容	会場	対象	備考
1 日	日	13 : 30	役員会	事務所	担当・役員	
8 日	日	9 : 00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
10 日	火	9 : 00	定例作業日	雑木林	会員・一般	
16 日	月	9 : 00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
18 日	水	13 : 30	編集会議	事務所	担当・役員	
22 日	日	9 : 00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
24 日	火	9 : 00	定例作業日	福岡薪小屋	会員・一般	
25 日	水	13 : 30	企画会議	事務所	担当・役員	
25 日	水	13 : 30	通信発行	事務所	担当	

4 月 イベントと森の学校の予告

行事内容	会場	備考

編集部連絡: 原稿締切は毎月20日です。

また、手書き原稿は「河内」までFAX等で提出してください。

森林、資源、地域の問題などで当会の活動に関連あるご意見などをお寄せください。

関係の深い記事など通信に記載します。

イラストなどもお寄せください。

発行責任者: NPO法人恵那山みどりの会

理事長 河内 龍二

事務所 〒508-0042中津川市西宮町2-13

(TEL・FAX 0573-65-1366)

13:00~16:00(水・土・日・祭日休み)

メールアドレス: midorinokai@wine.ocn.ne.jp